

なんたん

No. **52**

農業委員会だより

令和 **5** 年 **10** 月号

農業委員会のうごき	2~3
利用状況調査	4
まちかど通信	5
地域農業を支える	6
特集	7
なんたんあっちこっち 他	8

発行 南丹市農業委員会 編集 南丹市農業委員会広報委員会

〒622-8651 京都府南丹市園部町小桜町47

■電話 0771-68-0067 ■E-mail co-nougyo@city.nantan.lg.jp

■FAX 0771-63-0654 ■URL <http://www.city.nantan.kyoto.jp/www/gove/145/index.html>



農業委員会のうごき

農業者との意見交換会

7月10日、農業の担い手として活躍する女性や認定新規就農者等の現状や課題を把握するとともに、効果的な鳥獣害対策を実施するため、農政部会員22名が3グループに分かれ、関係者17名に出席いただき意見交換会を開催しました。

近年、新型コロナウイルス感染症や雪害の影響で中止が続き、実に令和元年度以来、4年ぶりの開催となり、活発な意見交換が行われました。

女性農業者の声

地域再生グループと女性農業者との意見交換では、若い女性が農業を続けるためには、産育休制度が必要であることや、0歳児保育の待機が出ないよう配慮が必要であること、また、機械作業などの支援制度創設が必要であるなどの意見がありました。

認定新規就農者の声

担い手グループと認定新規就農者などとの意見交換では、行政機関のオプザバーにも参加いただき、多過ぎる獣害への対策の一環として網とグレーチングの組み合わせによる防除への予算措置や、販路として市内学校給食への食材提供について、また、担い手のみでは溜池や用水路の管理が出来なくなっている課題について話し合われました。

獣害への現状把握と対策

獣害対策グループと市や府の関係機関との意見交換では、各地でシカの食害が顕著であり、これまでに被害がなかった地域でも被害がはじめていくことから、個体数を大幅に減らすよう要望があり、併せて小動物の被害も激増していることから、一層の対策を求める意見がありました。また、担い手に集積された農地の防護柵設置に係る補助基準の改善を求める意見や、猟友会との交流促進を図り知識の共有化を図り獣害対策に係る作業負担の分担を行うなどの協力が必要であるとの意見もありました。

今後について



▲3グループが集まり話し合う様子

農業委員会ではこれらの意見をとりまとめ、「農地等利用最適化推進施策の改善に関する意見書」に盛り込み、市に要望することとしています。

豊かな老後生活のために!!
加入しませんか?

のうねん 農業者年金

国民年金に上乗せする公的な年金制度です

1. 農業者なら広く加入できる
2. 積立方式・確定拠出型で安定した年金財政
3. 保険料の国庫補助
4. 保険料は2万円～6万7千円まで千円単位で選択可能
5. 税制面で大きな優遇
6. 80歳までの保証がついた終身年金

詳しくは農業委員会事務局まで (連絡先：0771-68-0067)

地域計画推進研修会



綾部市中丹文化会館



8月1日、京都府内の農業委員会等を対象とした研修会に出席してきました。

研修は、「京力農場（人・農地）プラン」から「地域計画」への内容と地域計画策定・実現に向けて京都府から説明がありました。

地域計画を進めるためには、現況の地図を作成し、地元住民と地図を見ながら話し合うことが必要とのことで、現状と、この先について、担い手などとの見交換して計画を実践しなければなりません。計画を進めるために、区長（自治会長）・農家（農事）組合長・南丹市・農業委員・農業委員会事務局が連携を密にしなければ、地域計画はできません。

参加した委員からは、農地の

将来に向けての現状は厳しく、地方に入るほど住宅や農地を維持することが厳しく、高齢化・人口減で後継ぎや農業の担い手もなく、廃業される農家が増えているなど、現状を報告されました。

事例報告では、宮津市農業委員会の事務局長からは実践現場の現状報告がありました。特に感じたことは、地元産を作り販路を広げて利益を得ることや、地域が活性化するには、地元利益を得て、生活が安定すること、農地をどう生かしていくかなど、参考になりました。

地域計画を進めるうえで、地域住民とのコミュニケーションは必要であり、会話を通じて進めるべきだと感じました。

（取材：橋本治樹 委員）

管内視察研修（京丹波町農業委員会）



▲研修の様子

6月27日、管内視察研修として京丹波町農業委員会を訪ね、活動記録簿の記入や、総会審議の効率化について、また地域計画について研修しました。

京丹波町農業委員会では、目標とする「毎月10日以上農地利用最適化活動（※）」を全員が達成されており、委員と事務局の意思疎通がうまくできていました。

また、管内で山林・原野化している農地について、3年前という早い時期から調査に乗り出して現況把握に努めておられました。この作業は国が求めている「地域計画」の作成において



京丹波町農業委員会
永武事務局長

も重要なデータとなります。当委員会でも今夏よりタブレットを利用して現況把握を行っていますが、京丹波町は一步先を行っておられると感じました。

当市の委員から積極的に発言や質問があり、全てに適切に対応いただき大変有意義な研修となりました。

南丹市でも令和6年度中に全域で地域計画を策定しますが、農業委員会ではこの研修で得た知識をもとに最適化活動を進め、地域計画の基となる目標地図の作成に向け取り組んでいきます。

（※①担い手への農地利用の集積・集約化 ②遊休農地の発生防止・解消 ③新規参入の促進による、農地等の利用の効率化及び高度化の促進を行うこと）

（取材：井上雅晶 委員）

農地の利用状況調査を実施

利用状況調査に タブレットを導入

8月21日から28日にかけて、農業委員と農地利用最適化推進委員が担当地域を中心に利用状況調査及び農地パトロールを実施しました。

今回の調査では、この夏から全委員に導入したタブレット端末を使用しました。それまでは、地図や農地台帳を持ちながら目視で利用状況を確認し、調査結果を農地台帳に記帳してきましたが、紙ベースの作業は手間と時間がかかっていました。

タブレットの活用により、自分の位置と近隣の航空写真データ、筆界、履歴が画面に表示され、それをもとに、ピンポイントで遊休化の恐れがある農地に出向き、現在の利用状況を確認することができず。また、簡単な操作によりその場で最新のデータを入力できるため作業時間が短縮され、業務の効率化につながります。

調査結果に基づいて

調査した結果について、旧町ごとに担当地域の農業委員と農地利用最適化推進委員が各農地の状況について報告し話し合いを行いました。

さらに遊休農地については、農地の荒廃状況によって、再生が可能な状況にある農地と再生が困難な農地に分類し、再生可能な農地については、今後の農地利用について自身で耕作・管理を行うのか、農地を貸した、売りたいなどの意向を確認するため農地の所有者等に対し意向調査を実施しています。再生が困難な農地に対しては、農業委員会で非農地判断を行います。



▲雑草が繁茂した遊休農地

今後の展望について

今回は、408aが遊休農地と判断されました。昨年度と比べると遊休農地は減少していますが、今後も遊休農地の解消に向けて取り組んでいきますので、引き続き適切に管理をしていただくとともに、労働力の不足などで耕作が困難になる恐れがある場合は耕作放棄地になる前に農業委員会にご相談ください。

また、今回はタブレットを導入したばかりで、紙ベース作業も同時に行いましたが、今後は地域計画を進めていくために、タブレット端末を利用して現況確認を行っていきます。



▲タブレット端末を活用して農地を確認

～お知らせと、お断り～

地域計画の策定にあたり、農業委員会委員は、担当する農地の現状を把握する必要があり、農地の巡回を行います。

また、状況を確認するためにお声掛けさせていただくこともあるかと思いますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



地元で活躍されている方や農業に関する取り組み、
また、日々の生活に密着したまち情報をお伝えします！

まちかど通信

うらやま

上辻商店 上辻清隆さん (園部町船岡)

農機具販売・修理 農家の困りごと引き受けます

上辻さんは、亀岡市内の農機具整備会社で、整備工として十数年のキャリアがあります。そろそろ独立して自分の店を持つと決意し、場所を探していたところ、以前から懇意にもらっていたお客さんから、「家の道路に面した倉庫貸すから船岡で店やったらええやん」とお誘いがあり、独立が実現しました。

倉庫を店舗用に改装して、平成31年春無事開店しました。まわりの人は、こんな田舎で店を開いても、お客さんが来てくれるのかと心配しました。しかし、持前のバイタリテイと、迅速丁寧な仕事ぶりがお客さんに喜ばれ、徐々に地域の支持が広がって心配は杞憂だったようです。

一方で、上辻さんは大家さんが手掛けてきた約5haの稲作や、米の乾燥籾摺り設備の運転も引き受けておられます。地域で設備を所有する農家さんは少なく、収穫した稲の処理をここに依頼する人が多くあつて、シーズン中はフル操業です。

いつも自分達の処理が後回しになるので、時期をずらした作付けをしています。

農機具販売・修理と農業の二足の草鞋で、今日も忙しいです。

(取材：内藤 彰 委員)



- 住所：園部町船岡松尾66
- 電話番号：0771-68-9405
- 営業時間：8:30～17:30
- 定休日：不定期

あたらしく 愛宕菜館 松尾晃さん (八木町八木)

野菜たっぷりラーメン

店主の松尾さんは京都市内の鳴滝で永年人気ラーメン店「桃花春」を経営されていましたが、その権利を後継者に譲り、一旦閉店されました。そんな中で、まだやれると令和元年6月八木駅前開店されました。

八木駅を降り、信号を渡り、左手方向に歩くと、赤い提灯が目印です。のれんを潜るとカウンターがあります。ラーメンは、今風なこってりでなく、隠し味に八角が効いて、とても深い出汁の味わいととも、野菜の甘みたっぷりの逸品です。

松尾さんは、ジャンプ競技



- 住所：八木町八木東久保38
- 営業時間：11:00～14:30
ラストオーダー
- 定休日：火曜日

で湧いた札幌冬季オリンピック選手村で働いておられ、ある日、選手が町中にラーメンを食べに行つたが、まずかつた残念そう。それなら自分が作ってあげようと思つた。このときのレシピが八木のメニューです。メニューは、塩と味噌ラーメン、それに餃子と唐揚げ、白ごはんです。醤油ラーメンは後進に譲り、ありません。

八木の飲食店が減る中で、生涯現役の松尾さんの活躍はうれしい限りです。

(取材：小早川健一 委員)

地域農業を支える

あの人この団体!

地域農業の発展を目指し、力強く活動する
団体・個人を紹介します。

LOCAL ORGANIC DELIVERY YAOYA

みろく 369商店 (八木町船枝)

野菜の宅配がある暮らし「つながる食卓」



369商店の従業員は、京都府以外からの移住者で、地域の活性化につなげるため、生産者から消費者に届けるまでに安全・安心を心がけて作業しています。また、振興会のグラウンド内(倉庫)に業務用の大きな冷蔵庫が設

南丹市で宅配専門のオーガニック八百屋369商店を営む鈴木健太郎さんは、新庄地域振興会(旧新庄小学校)の教室などを拠点に活動されています。新庄地域には、昔から農業を営んでいる人もいれば、新しく移住して新規就農した人も多く、地域の未来を考えて有機栽培や特別栽培など、環境負荷の少ない農業を志す人が増えています。



369菜店
Instagram
QRコード

(取材: 橋本治樹 委員)

置され、野菜や加工品・調味料の品質を維持するために保管されています。369商店が扱う野菜や米、加工品や調味料は、地域の暮らしや仕事から生まれたものが中心で、自分たちが日々食べて、豊かさを実感しているものばかりです。そんな地域の自然環境や手作りと「つながる食卓」を少しずつ広げていきたいと感じました。

お詫びと訂正

前号 (No.51) 8ページで紹介しました「大型特殊自動車免許」におきまして、小型特殊免許または普通免許の高さ表記と、イラスト(トラクター)横の高さ表記を「2.0m以下」としておりましたが、安全キャブや安全フレームがある場合は「2.8m以下」となります。お詫びして訂正いたします。



全国農業新聞を購読しませんか。

農業経営と暮らしに役立つ週刊の農業総合専門誌です。
農業者の視点で、さまざまな情報をお届けします。
発行日/金曜日発行(月4回) 発行所/全国農業会議所
購読料/月額700円(税込)

購読の申込は農業委員会事務局まで 電話 0771-68-0067

第32回『京都府農業委員会広報コンクール』
金賞受賞



令和4年度、京都府農業委員会コンクールで金賞を受賞いたしました。
これからも、たくさんの方に見ていただけるよう一同頑張ります。
(谷口定己 広報委員長)

京都府立農業大学校令和6年度の学生を募集します

京都府立農業大学校では、豊かな自然に囲まれた環境の中で、農業の担い手、農業後継者を養成しています。収益性の高い京野菜や宇治茶の生産を学び、農業に従事する意欲ある学生を募集しています。

- ◆**募集人数** 20人程度(推薦入学を含む)
- ◆**出願資格** 出願資格 学校教育法に規定する高等学校若しくは中等教育学校の卒業生(令和6年3月卒業見込み)又は同等の学力がある者で令和6年4月1日時点で40歳未満の者
- ◆**試験日程**

一般入学試験(前期)	受付期間	令和5年12月1日(金)～12月13日(水)
	試験日	令和6年1月12日(金)
一般入学試験(後期)	受付期間	令和6年1月19日(金)～1月31日(水)
	試験日	令和6年2月16日(金)

問い合わせ先 京都府立農業大学校 (0773-48-0321)

なんたん あっちこっち

とにかく広い南丹市。
南丹市のあちらこちらで、地域ならではの魅力的な取り組みがされています。
そんな南丹市の、**あっちこっち**のできごとを紹介します。



農業がビジネスになれば地域は栄える

3月に園部町南八田に「(株)京都丹波アグリサービス」が設立されました。

IT分野専門家の阿久津泰紀さん(株)ブイ・クルーズ代表取締役(前園部町農業公社理事長)をはじめ、異業種経験者たちが共同設立をした販路開拓を支援する地域商社です。具体的には、丹波農作物及び加工物のグローバルブランディングや農家と国内外の企業、消費者との販路開拓の支援、農地を集約し、地域単位

の大規模ビジネスファーム構築の支援等を行います。

農産物は主に山椒、米(減農薬・有機等)、丹波栗、ゆず、丹波黒豆、トウモロコシ等の市場価値が高いもので、販売先は高級料理店や高級ホテルチェーン、卸業者、海外バイヤー及びスーパーを計画されています。

IT技術を活用し、地域農家さんを360度サポート可能なサービスの構築を目指し、頼れる地域農業商社へと発展することを期待しています。(取材：内藤政博 委員)



▶独特の味と香りの朝倉山椒と丹波栗



▶左から、阿久津さん、佐々谷さん、山本さん(取締役)

- ◆住所：園部町南八田神垣内33
- ◆E-mail：info@kyototamba-ags.jp
- ◆URL：https://kyototamba-ags.jp

委員ぶらり旅

旅人：梅津義明 委員



収穫の秋 (美山町大野)

新聞やテレビからようやく「コロナ」の三文字が消える様になり、まちなかでもマスクなしで会話されている姿を見かける様になって圃場でも明るくなったような気がします。

久し振りにカメラを持って圃場で作業されている皆さんと会話をしながらカメラに収めてみました。

よく手入れした圃場では、農産物が収穫の時期を待っていたかのように実っていました。

農家にとってはこれからしばらくの間は最も忙しい時期ですが、笑顔の時期であって欲しいと心から応援しています。

編集後記

例年を上回る猛暑の夏も過ぎ、長月に入るや我が農村でも稲刈りが始まりました。「今年はどうですか」と尋ねると、「まあまあやな」と日焼けした真っ黒い顔に笑顔で返してくれました。(取材：谷口定己 委員)

地域の食と農業の情報紙『なんたん』

自慢の農作物・地域の積極的な取り組み・地元野菜の食べられるお店など、すてきな情報をお待ちしております。
農業委員会事務局 電話：0771-68-0067

- | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|--------|
| 三崎 | 藤原 | 倉内 | 梅津 | 前田 | 井上 | 波部 | 橋本 | 小早川 | 内藤 | 寺尾 | 辻田 | 杉森 | 川勝 | 谷口 | ◆広報委員会 |
| 正子 | 忠司 | 義裕 | 明 | 利治 | 雅晶 | 尚徳 | 治樹 | 健一 | 政博 | 義彰 | 榮延 | 義治 | 芳明 | 定己 | |